

平成28年度学校監査推奨事項及び対応状況

教育委員会

推奨事項	対応状況
<p>第三中学校及び第四中学校の統合による大鳥中学校の開校について</p> <p>区立中学校の適正規模・適正配置の推進は、目黒区実施計画等に掲げられている重要な課題である。</p> <p>第三中学校及び第四中学校の統合による大鳥中学校の開校に向けては、25年3月に、「第三中学校・第四中学校の統合新校整備方針」（以下「整備方針」という。）が策定され、整備方針等に基づき、校舎等の改修及び電子黒板等必要備品の整備など教育環境の整備をはじめ、Eキャンプ（English Camp）の実施など特色のある教育活動の推進、合同遠足の実施など生徒の交流の推進、小学校との交流及び情報発信など、多くの課題に積極的に取り組まれたところである。</p> <p>開校後は、教育目標として「人間尊重の精神を基盤とし、国際社会で大きく羽ばたく生徒を育成する。「自主 協働 創造」を掲げ、英語教育・国際理解教育や各教科・特別活動など特色のある教育活動、生徒による小学校への出前授業など小学校との交流、地域との連携、学校だよりやホームページによる積極的な情報発信など、活発に展開されていることが見受けられた。</p> <p>生徒数・学級数も、27年5月1日現在通常学級362名（内1年生119名）11学級、特別支援学級17名3学級から28年5月1日現在通常学級381名（内1年生131名）11学級、特別支援学級18名3学級に増加しており、望ましい規模の中学校とされる「学級数で11学級以上、生徒数300人を超える学校」が実現されている。</p> <p>以上のとおり、大鳥中学校の開校については、保護者・生徒・教職員及び地域等の関係者の多大な尽力により、27年4月に開校となったものであり、開校に至るまでの積極的な取組及び開校後の活発な教育活動については、高く評価されるも</p>	<p>大鳥中学校の統合による成果・課題の検証については、庁内検討組織「南部・西部地区の区立中学校の適正配置に向けた検討会」で検証し、平成29年2月にその結果報告書の提出を受けたところである。</p> <p>検討会における検証においては、大鳥中学校の在校生、卒業生、保護者、教職員、地域関係者へアンケートを行うなどして、統合による生徒の変化や教育効果等の観点から、成果や課題が明らかになった。</p> <p>検証結果は、今後の大鳥中学校の学校運営や南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた取組に活かしていく。</p> <p>公表については、4月にきょういく広報及び区ホームページにより行う予定である。</p>

のである。

一方、28年度各部定期監査結果においては、「第三中学校・第四中学校の統合による成果・課題について検証・評価しながら、南部・西部地区の区立中学校の統合の検討に活かし、統合に向けた取組を促進されたい。」旨意見・要望を述べたところである。

現在、「目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証の進め方について」(28年7月7日政策決定会議情報提供)に基づき、大鳥中学校の統合における成果や課題をまとめ、学校運営及び南部・西部地区の区立中学校統合の取組に活かすために検証が行われている。

これらの検証結果等を活かし、学校教育活動が一層推進されるとともに、南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた取組をさらに推進されることを望むものである。

(学校統合推進課、大鳥中学校、ほか関係課・中学校)

【学校統合推進課】